

日本大豆ミート協会について

近年、プラントベースへの注目が高まっています。特に、健康志向の高まりや、食品を生産するための原材料や生産、流通、廃棄による地球環境への負荷を減らす動き、そして、ベジタリアンやヴィーガンなどの菜食主義への注目や、宗教的な理由による食事制限、食物アレルギーへの対応などから、世界的に、植物性由来の食品である大豆ミートへの興味・関心が高まっています。大豆ミートは、生産・生育過程において、必要な資源量やCO2排出量などの面で環境への負担が少なく、消費者と生産者、そして地球にも優しいプラントベースフードとして、欧米を中心に市場が拡大しており、国内においても、2020年頃から、市場が形成されつつあります。

こうした中で、2023年9月1日、日本大豆ミート協会は、大豆ミート食品類の普及、及び発展を念頭に置き、会員相互の交流を保ち、本団体の発展に協力する事を目的に任意業界団体として、設立されました。日本大豆ミート協会は、マルコメ株式会社、スターゼン株式会社、伊藤ハム米久ホールディングス株式会社、日本ハム株式会社、そして、大塚食品株式会社による大豆ミートのメーカー5社が中心となり、発足しました。協会の設立に先駆けて、これら5社が中心となって、年々増加する大豆ミートに対する生活者の需要に応えるため、2020年秋より、大豆ミート食品類の日本農林規格（以下「JAS」）の制定に向けて規格案を準備し、2022年2月24日、農林水産省にてJASとして制定されました。

本団体は、大豆ミート食品類の普及、認知拡大に関する事業をはじめ、各種関係機関、団体との連携、協調に関する事業、そして、大豆ミート食品類の製造・加工・品質・流通の研究、発展に関する事業等を中心に、大豆ミート食品類の普及、及び発展に貢献するための事業を展開します。

また、日本大豆ミート協会では、正会員、協賛会員、賛助会員の3種を設けています。大豆ミートのメーカーをはじめ、関連機器の製造販売事業者、大豆ミート食品類に関する事業を展開している法人等が本協会に入会することができます。

日本大豆ミート協会では、今後は、サステナブルな食材である大豆ミートのさらなる普及と適切な流通を目指し、大豆ミート食品類JASに関する規格の見直しや、国際化についての主体的な活動、大豆ミート市場の拡大につながる情報発信、広報活動を積極的に展開していきます。

（2023年10月現在）